IAU Circular No. 4494
市村彗星（1987d1）

天文電報中央局
国際天文学連合
郵便宛先：Central Bureau for Astronomical Telegrams
Smithsonian Astrophysical Observatory, Cambridge, MA 02138, U.S.A.
TWX 710-320-6842 ASTROGRAM CAM
電話 617-495-7244 / 7440 / 7444

市村彗星（1987d1）

東京天文台の香西洋樹氏は、埼玉県吉見町の市村義美氏による彗星の発見を報告した。
以下の情報が得られている。

1987 年 UT	赤経 R.A. 1950.0	赤緯 Decl.	m1	観測者
11 月 22.521	3h 57.7m	-19° 12′	9	Ichimura
11 月 23.06	3h 54.5m	-20° 27′	9	Rudenko
11 月 23.195	3h 53.5m	-20° 45′	9	同上
11 月 23.44844	3h 52m 08.09s	-21° 26′ 16.1″		Herald
11 月 23.47254	3h 51m 58.75s	-21° 30′ 00.3″		同上
11 月 23.497	3h 52.0m	-21° 36′	9	Tregaskis
11 月 23.53	3h 51.7m	-21° 39′		Pearce

市村義美氏（いわき観測所、福島県）：
0.12m 双眼鏡による観測。彗星は拡散状で、中央集光は認められない。

M. Rudenko 氏（米国マサチューセッツ州アマースト）：
0.15m 屈折望遠鏡による観測。非常に拡散状で、コマの直径は 5 分角以上。

D. Herald 氏（キャンベラ近郊、Kambah）：
11 月 23.44844 日の画像は微弱。

T. B. Tregaskis 氏（オーストラリア・ビクトリア州 Mt. Eliza）：
0.15m 反射望遠鏡による観測。非常に拡散状で、中央集光はなく、コマの直径は約 10 分角。

A. Pearce 氏（西オーストラリア州パース）：
コマの直径は 12 分角。

大マゼラン雲中の超新星 1987A

ペンシルベニア州立大学の D. Burrows、J. Nousek、G. Garmire 各氏は、次のように報告している。

「我々は、ジェット推進研究所が提供した CCD 撮像検出器を搭載した、観測ロケット搭載の軟 X 線望遠鏡を用いて、SN 1987A を観測した。ロケットは 1987 年 11 月 14.59 日 UT に、南オーストラリア州ウーメラから打ち上げられた。

ロケット本体、指向装置、観測機器はいずれも正常に作動したが、SN 1987A からの軟 X 線は背景レベルを超えて検出されなかった。

データの予備解析に基づくと、SN 1987A からの 0.75〜2 keV のエネルギー帯における X 線放射について、保守的な上限値として 5 × 10^-12 erg/cm²/s を置くことができる。

今後の解析と、より精密な姿勢決定により、この上限値は改善され、より低いエネルギー領域まで拡張されるであろう。

ペイロードは無事回収され、1988 年 1 月の再飛行に向けて、現地で再整備された。」

南オーストラリア州アデレードの A. C. Beresford 氏による目視等級推定：
11 月 17.5 日 UT：6.1 等
11 月 19.47 日 UT：5.9 等
11 月 20.44 日 UT：6.0 等
11 月 21.63 日 UT：6.0 等

1987 年 11 月 23 日
Daniel W. E. Green